

いろいろ不満はありますが・・・

食品安全委員会委員 中村靖彦

不十分な情報提供の危険性

ある全国紙がおこなった世論調査の見出し「米産牛肉の輸入67%再開反対」が私の目を引いた。再開賛成は21%だけだという。まだそんなに消費者の不安は根強いのかと思いながら設問を読む。そして驚いた。止まっていたアメリカ産牛肉の輸入が年内にも再開されそうだとした上で「あなたは生後20ヶ月以下の牛に限って検査なしで輸入を認める方針に賛成ですか、反対ですか」の質問である。これはいささか公平さを欠く問いである。輸入を再開する牛肉は、仮にそうだった場合のことだが、確かに生後20ヶ月以下に限る。これは病原体であるBSEプリオンが蓄積しにくいし、仮に感染していても検出は難しいと言われているからである。しかし、念のために、病原体が蓄積する脳やせき髄などを全て取り去る約束で輸入する。この情報を消費者が知っているかどうかを聞いた上で質問するべきだろう。単に「生後20ヶ月以下の牛は検査しないで輸入するけどいいの?」と聞いたのでは、やはり不安の方が多くなるだろうし、間違いではないかもしれないが、公平とは言えない。たまたま会った別の社の記者は、「よくこの質問で

21%も輸入賛成がありましたね」と言っていた。こんな設問で、一般消費者の傾向を見極めたように報道されてはかなわない、と正直私は思う。国会の質疑でも引用される調査なのですよ。より慎重であってほしい。

しかし、言論は自由であるべきだ

マスコミへの批判が、BSEや食の安全に関しても聞こえてくる。風評被害をもたらす一因のように言われることもある。公の意見交換会などでも、時にマスコミを取り締まれないのか、なんていう意見が飛び出す。あんな風に書かれたおかげで、売上げが減ったとか、被害の現実がその発言の裏側にある。不満は分かるが、ここはよく考えよう。取り締まりなどは論外で、戦時中の言論検閲時代に戻れと言うのか。世の中の人々はマスコミとは否応なくお付き合いをせざるを得ない。お付き合いに際して大切なポイントを、以下にいくつか挙げる。

メディアの性格を見極めよう

1) 一口にマスコミと言っても性格は違う。まず事実の正確さを吟味するよりも、とにかく売上げを伸ばせ

ばいい、という方針のようにみえるマスコミもある。このグループには何を言っても仕方がない。簡単に言えば、お付き合いは遠慮する。

2) 新聞、放送、雑誌にはそれぞれ主張があり、外の人間の思う通りになるものではないことを認識する。思い通りになったのでは健全なメディアとは言えない。

3) その上で、警戒せずに情報を提供する。食料・農業問題に関心を持つ人が少なくなっているから、「へえ、そうなの」と浸透は早い。

先程の世論調査を報じた同じ新聞の別のページの見出し「メディア、牙にも蜜にも」。先日の総選挙でのメディアの関わり方が大きかったことを伝えた記事の見出しだが、他の分野にも当てはまる。



食品安全委員会からのお知らせ

食品安全委員会では、ホームページのトピックス「鳥インフルエンザについて」を更新しました。
詳しくは、<http://www.fsc.go.jp/sonota/tori1603.html>をご覧ください。



食の安全への不安・疑問から情報提供まで、皆様のご質問・ご意見をお寄せください。

食の安全ダイヤル **03-5251-9220・9221**

●受付時間: 10:00~17:00/月曜~金曜(ただし祝日・年末年始はお休みです)

ご意見等は電子メールでも受け付けています。ホームページからアクセスしてください。

食品安全委員会ホームページ <http://www.fsc.go.jp/>

内閣府 食品安全委員会事務局

〒100-8989 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー6階

R100

古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています